2025 *6-7月*

はしかけニューズレター

2025 年度 第2号 通巻 183 号

2025年(令和7年)6月15日発行

会員数 … 379人

<u>グループ数 23グループ</u> (2025年 5月31日現在)



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員:金尾) 住所:〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850 電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: https://www.biwahaku.jp

~ 目 次 ~

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

(1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会(3) 淡海スケッチの会

(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊

(9) 里山の会 (10) 植物観察の会 (11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ

(13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん (16) ほねほねくらぶ

(17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人 (20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流 (22) 水と暮らし研究会

(23) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(6~7月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

1. 事務局からのお知らせ

6 月に入り、梅雨入りしましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。生活実験工房の田んぼの稲も元気にすくすく育ち、日々成長している姿に自然の力強さを感じております。これから梅雨の時期を迎え、田んぼにとっても恵みの雨となり、さらなる成長が期待されます。今後、天候が不安定な日が続くため、皆様、お身体大切にしてくださいませ。

以下は事務局からのお知らせです。

■第1回はしかけ登録講座の会員登録の手続きについて

2025 年 4 月 27 日(日)~2025 年 5 月 11 日(日)に開催しましたオンライン講座で、新規会員登録していただいた方の登録手続きを現在進めております。名札等につきましては、6 月中旬頃に送付予定です。お時間を頂き申し訳ございませんが、ご了承頂けると幸いです。

■2025 年度 第2回はしかけ登録講座

2025 年度第 2 回はしかけ登録講座を以下日程で、オンラインおよび対面にて開催予定です。お近くに、はしかけ活動に興味をお持ちの方がいましたら、ぜひお知らせください。

(オンライン)日時:2025 年 9 月 7 日(日)~2025 年 9 月 21 日(日) のうち任意の時間 (1 時間半程度)

(対面)日時:2025 年 10 月 12 日(日) 13 時 30 分~16 時 00 分 (受付時間 13 時 00 分~)場所:琵琶湖博物館 セミナー室 ※詳細は、琵琶湖博物館 HP をご覧ください。

■第33回企画展示「川を描く、川をつくる―古地図で昔の堤をさぐる―」について

滋賀県(近江国)は日本国内でも有数の「天井川」が多い地域で、「はげ山」などと呼ばれる草木の少ない山々が広がっていた歴史があります。そして、人々は水害・土砂災害から地域をまもるため、「堤」(川の堤防や山の土砂流出をとめる堰堤など)をつくってきました。

この企画展示では、17~19世紀の琵琶湖集水域・淀川流域を中心に、災害の状況や土木工事の計画を描いた地図、治水の歴史に関わる道具や文書などを展示します。また、古い地図から歴史を研究する方法を紹介します。川をつくる人々のそばにあった地図を眺めて、歴史に埋もれた堤を見つけにいきましょう。

期間は2025年7月19日(土)~11月24日(月)で、企画展示室にて開催します。企画展示の観覧には、別途観覧料金が必要です。ぜひ、ご観覧ください。

(副担当:西川 真里奈)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 74名 】

グループ担当職員:田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■3月30日(日) うおの会総会 場所:琵琶湖博物館 会議室 参加者:26名

例年通り3月最終日曜日にうおの会総会を行いました。会員25名が集まり、2025年度の活動報告を受け、また2025年度の活 動計画を確認しました。

その後、調査時の写真をスライドショーで楽しみました。あの日は何が採れたとか、やたら暑かったとか、誰かが川にはまった とか、調査の時の出来事を思い出しながら、和気あいあいと時間を過ごしました。 調査の時も楽しいのですが、こんな風にみん なで思い出すのも楽しい。来年度もみんなで楽しい時間を過ごしたいものです。 (文責:石井千津)

■4月20日(日) 第188回定例調査 場所:和邇川 参加者:22名

2025 年度最初の活動です。初参加の方が多く、運営委員が少なめだったため、調査場所選びが難しそうな真野川を避け、急遽、 和邇川に場所を変更しました。

私(中尾)が参加した和邇公園付近の調査班では、ヨシノボリ類、ウキゴリ、ドンコ、カワムツなどが採れましたが、やや種数が 少ない結果となりました。和邇川河口付近を調査した班では、ホンモロコ、アユ、ドジョウなども採れたそうです。

終了後は投網練習会となり、初めてなのにそこそこ開く人、苦戦する人、久々だと言いながら上手い人、などなど。投網が使え るようになると、たも網では採りにくい遊泳魚も採れるので、ぜひ練習しましょう。

投網練習の際、ちょっとした事件が。パンをかじりながらのんびり皆さんの練習を眺めよう…と思ってひと口食べた瞬間、トビに 強奪されました。直前に「ここのトビは人慣れしていて食べ物を盗るから、気を付けて」と言われていた矢先の出来事。前日、サイ クリングで立ち寄り買ってきた滋賀県の名物パン。味わえたのは、ひと口だけでした。 (文責:中尾博行)

■5月18日(日) 第189回定例調査 場所:野洲川 参加者:26名

前日の雨から一転、気持ちのよい五月晴れのもと、26人とたくさんの会員が集まりました。今回は守山市の野洲川での、毎年1 回の定点調査で、全員で川に入りました。親子で参加した会員も多かったです。

見つかった魚種は、アユ、オイカワ、ヨシノボリ類、ウキゴリ、ウツセミカジカなど 9 種。ナマズとヨシノボリ類と思われる卵も見ら れました。気温は 29.7°C、水温は 23.0°Cで、前日の雨のせいか水は濁っていました。

普段は小さな班に分かれて車で移動しながら調査をするのですが、みんなで 1 か所に集まって捕まえた魚を見せ合ったり、魚 談義をしたりして、和気あいあいの調査となり、とても楽しかったです。 (文責:水戸基博)



ナマズの卵(5/18)



今年とても少ないアユを確認(5/18)



野洲川での調査の様子(5/18)

【今後の予定】

6月は石田川、7月は多賀町付近での調査を予定しています。詳細は追ってご連絡します。

(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名 】

グループ担当職員:歴史系担当学芸員

【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

【活動予定】

- 「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- 「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。

(福野憲二)



グループ担当職員:桝永 一宏

【活動報告】

■2025年3月23日(日) 琵琶湖博物館 参加者 5名

オープンラボでスケッチおよび博物館敷地で吟行をしました。 博物館の庭では斑雪が見られました。

■2025年4月20日(日) 堅田(大津市) 参加者 2名

浮御堂や堅田浜のあたりを散策しました。

【活動予定】

○ 2025 年 5 月 25 日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行います。

活動時間 10 時 30 分~(16 時)

○ 2025 年 6 月 22 日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行います。

活動時間 10 時 30 分~(16 時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。 俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

〇博物館 de 俳句

4月20日のスケッチの会は気候が良くなりましたので博物館の 外に出ました。

この日は浮御堂の近くでレイクマーケットというイベントが行われていて地元の人とモノを通じての交流も楽しみました。

湖畔の公園では桜吹雪が美しく、藤が咲きはじめていました。

- ※ 写真は博物館の庭のたんぽぽと堅田浜の藤棚。
- 2025 年 1 月 26 日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3 名 オープンラボでスケッチおよび博物館敷地で吟行をしました。
- 2025 年 2 月 23 日(日) 琵琶湖博物館 参加者 5 名 博物館敷地で吟行。オープンラボでスケッチおよび句会をしました。





(4) 近江はたおり探検隊

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 18名 】



グループ担当職員:歴史系担当学芸員

【活動報告】

■3月26日(水) 参加者:4名

各自作業。スピンドルで綿の糸紡ぎ、羊毛をカード機でカードするなど。

■4月9日(水) 参加者:6名

各自作業。びわ博フェスに向けて、蛇籠の試作。

■4月26日(土) 参加者:4名 各自作業。スピンドルで綿の糸紡ぎなど。

■5月14日(水) 参加者:4名 各自作業。スピンドルで綿の糸紡ぎなど。

【活動予定】

■織姫の会

5月31日(土)、6月11日(水)、28日(土)、7月9日(水)、26日(土)、8月はお休み

(文責:辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 8 名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2025年 3月の活動

〇総会

参加者: 8名

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 日時: 3月15日(土)13:30~15:30

・隊長から、岩石調査隊が創設されてからのあゆみと、滋賀県の地質や琵琶湖カルデラについての説明があり、大変勉強になりました。今年度は、琵琶湖カルデラを中心とした調査や勉強会が増える予定です。

- ■2025年 4月の活動
- ○野外調査を予定していましたが雨天のため中止になりました。
- ■2025年 5月の活動
- ○野外調査を予定していましたが雨天のため中止になりました。
- ■今後の活動予定
- ○3種類の溶結凝灰岩の違いを野外調査 6月1日(日)10:00~15:00 近江八幡市の繖山
- 〇岩石薄片の偏光顕微鏡による観察 7月19日(土)13:30~16:00 琵琶湖博物館 実習室1
- 〇岩石の鑑別方法の勉強会 8月2(土)13:30~16:00 琵琶湖博物館 実習室1
- 〇びわ博フェス準備検討会 9月
- 〇野外調査 10月
- ○びわ博フェスに参加 11月
- 〇岩石持ち寄り勉強会 1月
- 〇地学研究発表会 2月
- 〇体験学習プログラム【わくわく探検隊】 3月

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 9名 】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

【活動報告】

活動日 4月19日 場所 琵琶湖博物館 研究交流室

- 〇代表者等の選出
- Oこれまでに撮影した温故写新の写真確認
- 〇今年度の活動計画
- ・「温故写新」創立20周年記念の取り組みについて相談しました。
- ・今年度の撮影については、「烏丸半島の四季」を中心に撮影します。

【活動予定】

【5月上旬】

内容:草津のサンヤレ踊りなどを中心とする祭りの写真撮影

場所:各々が好きな祭りに赴いて活動する。

[6月]

内容: 烏丸半島撮影会

場所:烏丸半島

【7月】

内容:企画展オープニングセレモニーの撮影会

場所:琵琶湖博物館企画展示室

[8月]

内容:撮影写真検討会、琵琶博フェスに関する話し合い

場所:研究交流室

【9月】

内容:生き物写真撮影講座

場所:現在調整中

※9月以降の活動については8月か9月に検討。

○その他

- 写真データの提供方法や博物館での保存方法について検討しました。
- ※活動に参加される方は、事前にグループ担当学芸員までご連絡ください。
- ※温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行っています。ご希望の方は温故写新担当学芸員(金尾・加藤) までご連絡ください。 ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。

(谷口 雅之)



(7) 暮らしをつづる会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 1 名 】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

以前実施した聞き取り調査のデータの取りまとめ作業を始めました。膳所周辺の水辺遊びの話などが印象に残っています。

【活動予定】

地元の人たちが運営している資料館の訪問や、滋賀県内での聞き取りと聞き書きの活動を予定しています。地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保 実香)



グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■採取した化石の標本整理と目録作成

日時:5月25日(日) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室 1 参加人数:5名

活動内容:この日は屋外活動を予定していましたが、前日の天候が良くなかったため屋内活動に切り替え、今までの古琵琶湖発掘調査隊の活動で採取した化石の標本整理と目録作成を行いました。化石の採取日や採取場所、何の化石かなどを目録作成用の用紙に書き込み、化石の写真も撮影しました。また、今後の屋外活動の参考になるよう、これらの化石の採取時の様子や調査地の状況などについても当時の活動に参加したメンバーより説明がありました。今回の活動で整理した情報を元に標本目録を作成し、採取した化石の標本と合わせて、これからの私たちの活動で活用していきたいと考えています。





【活動予定】

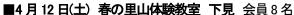
■未定



(9) 里山の会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 14 名 】

グループ担当職員:奥田 岬



4月20日に行われる春の里山体験教室の下見を行いました。昨年よりも遅く満開を迎えたサクラが映える晴天のもと、野草を探しながら散策しました。ヨモギやイタドリ、ハルジオンなど、野草に詳しい会員の方の説明を受けながら、気持ちよく散策することができました。1週間たてば野草の状態は変わるということで翌週の本番の際との違いも楽しみながら当日を迎えようと話をしました。





■4月20日(日)春の里山体験教室 本番 一般参加者15名、会員6名

今回も多くの方にご参加いただき、里山体験教室を開催しました。最初に自己紹介などを済ませて、さっそく春の野草などを探しに散策に行きました。満開だったサクラの花は散った一方で、シャガの花が咲いているなど、下見の際とはまた違った光景を見ることができました。参加者と一緒に植物の匂いや手触りを確認しつつ、食べられる野草かどうかなどの話もしました。





午後からは里山についての話をしたあと、丸太切り体験を行いました。初めてのこぎりを扱う方もおられましたが、みなさん熱心に切っていました。切ったものを紙やすりで磨いて、名前を書いて名札にしました。

【今後の活動予定】

5月29日(木) 潮干狩り

6月14日(土) 夏の里山体験教室 下見

6月22日(日) 夏の里山体験教室 本番



グループ担当職員:芦谷 美奈子

4 月中旬から急に暑くなり、ソメイヨシノがまだ咲いているうちにヤマザクラもオオシマザクラも一気に咲いてしまった。 いつもはこれらのサクラが咲き終わった頃から、セリ、こごみ(クサソテツ)、イタドリ、うるい(オオバギボウシ)、ヤブカンゾウを毎週順番に採りに行って食べるのが楽しみの 1 つなのに、今年は何もかもが直ぐに大きくなってしまい、セリだけしか食べられず、悔しい・・・。

【活動報告】

■4月5日(土) 「お出かけ観察」栗東自然観察の森 10:00~13:00 すぎ 参加者4名

第一日曜が本来の活動日だが、都合で日程を変更した。

この日は、気温 13°C。 駐車場のモクレンが咲き終わり、コバノミツバツツジが咲き始めた。ヤマザクラは未だつぼみ。

ニオイタチツボスミレ?ふつうのタチツボスミレ? 自信が無く、2 つを見比べようと探したがタチツボスミレらしきものが見当たらず、ひとまずスルーして進む。 足元には、ヤエムグラ、ミドリハコベ、セントウソウ(以前より増えている)が咲いていた。 今年はもう蕗のとうはない。 オオシマザクラ、ヤマブキが満開。 ハナノキ(雄株)もタイミング良く満開になっていて、樹冠が赤っぽく見えた。





カタクリも満開(以前より増えている)、ササユリ(葉は平行脈)・ウバユリ(平行脈じゃない、なぜ?)は芽出し、ヤブツバキ・コブシの花は終わりがけ。ヤマアイ、ムラサキケマンを見ながら、ハランの所へ行き、花を探した。 開花はまだのようで、つぼみと実(宝珠の形?)が見つかった。 ユキワリイチゲも満開(株数の割に花が多い)、コセリバオウレンは結実、バイカオウレンは少し咲き残っていた。

ここまでで、2 時間近く経ってしまい、急いでザゼンソウの所へ行った。 ザゼンソウは 4 つ咲き残ってくれていた。キクザキイチゲも今までの中で一番多く咲いていて、嬉しい! イワウチワ・イカリソウ・ハルトラノオも咲き始め、ウラシマソウも小さいながら5つの花を見ることができた。 帰りがけに、ヨホウチク(四方竹)を触り、四角いことを今年も確かめた。 駐車場に戻って、カンサイタンポポを見て、解散。

■5月4日(日)「持ち寄り観察」博物館 実習室1 10:00~12:30 すぎ 参加者3名

大型連休ということがあり、朝 9:30 に駐車場の半分が埋まっていた。 後に聞いたところ、この日の来館者数は 6000 人越えだったそうだ。

始めに、4 月 27 日に 3 人で受けたコケ講座の復習(ハイゴケ、トヤマシノブゴケ、ヤノネゴケ、タチヒダゴケ、コゴメゴケ、エゾスナゴケ、ハネヒツジゴケ、キシュウツボゴケ、蒴と蒴歯)からスタート。 あああ、難しい・・・。

次に、クロバイ、ハイノキ、シロバイ、ミミズバイについて、図鑑などを見比べながら調べた。 結果、秋~冬にクロバイの実を見に行こうということになった。

次に、持参したケヤキの花(押し葉、4月6日採集)、ウリハダカエデの花を観察。ケヤキの花の写真がきれいに載っているものが無く、各図鑑の文章を細かく読みながら実体顕微鏡を覗いた。押し葉で乾燥してあることもあり、分解しようとすると芽の部分や芽鱗がパリパリと割れてしまった。 枝の下の方に粒々と付いているのは雄しべの集まった雄花で、未だ開いていないとわかった。 結局、枝の先に付く雌花は見ることが出来なかった。 来年採集やり直しだ。 ウリハダカエデは、雌雄異株、ちょうどこの時期に花かんざしのような花序が垂れ下がる。大好きな花の 1 つだが、詳しく観察するのは初めてだった。 普通に見ていると 1 つの花の花弁が多くてかわいい、そ



れが沢山連なっている。ルーペや実体顕微鏡で見ると、小さめのがく片 5, 大きめの花弁 5 が重なっていること、雄しべだけがあることがわかった。あいにく雌花は採れていなくてこの日は見ることが出来なかった。カエデのなかまの翼果が欲しいときに、この木が手が届くから、ということで"この木"で採っていたはずなのに、雄株なのか? 帰り道にもう一度よく見ながら採って帰ろう!

今回も疑問が満載のまま終了・・・、あぁぁ・・・。

帰り道、採集するために朝と同じ木を見たところ、雌雄異株のはずなのに、どう見ても同じ木の枝にそれぞれ雄花も雌花も付いていた。 図鑑には載っていないが、そういうこともあるとのことを後から知った。 そのまま、咲いたばかりのもっと状態がよく分かる雌花を捜してウロウロ(車で)した。 武兵峠(鈴鹿山脈、三重と滋賀の県境)でやっと咲いたばかりらしい雌花を見つけ、画像を撮った。 雌しべがクルンとしている、雄しべ(機能はないらしい、機能が無くても両生花というのか?)もある、子房の両側に翼がわずかにある、花序の根元に行くほど子房も翼も大きくなっている。 嬉しくなって直ぐにメンバーに画像と共にライン送信した。

【今後の活動】

- ■月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。
- ■外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。 基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- ■8月、2月は、例年お休みしています
- ■6月1日(日)「おでかけ観察」多賀町 高取山 10:00~12:00 すぎ
- ■7月6日(日)は未定
- ■※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(11) たんさいぼうの会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 10名 】

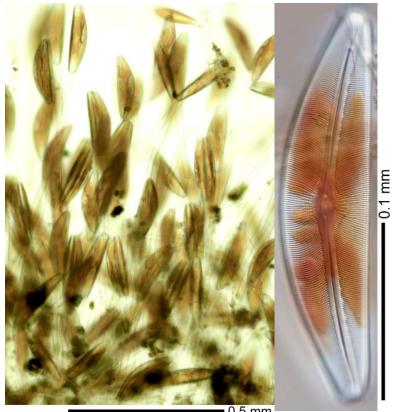
グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第79回総会を、2025年4月6日 に、琵琶湖博物館研究交流室で開催しました。参加者 は現地3名、オンライン3名の計6名でした。近年、参 加者は徐々に減っていますが、個人研究は確実に進 んでいます。影の会長による論文の仕上げが滞って いるために止まっている研究が幾つかあります。

総会のわずか 4 日後の 4 月 10 日、会員の富小由 紀さんらが投稿していた古琵琶湖層群蒲生層の化石 珪藻の論文が、日本珪藻学会発行の Diatom 誌に受理 されました。これが富さんにとっては 2 本目の主著論 文、たんさいぼうの会会員名義の主著者による 21 本 目の論文になります。詳細はオンラインで出版され次 第、追って報告します。

5月18日には、久々の「たんさいぼうの小さな旅」 で、高島市朽木村井の安曇川にミズワタクチビルケイ ソウ調査に行ってきました。参加者は6名でした。この 場所では 2022 年に福井県立大の研究チームが近畿 圏で初めてミズワタクチビルケイソウを発見して以 来、継続的に調査が行われ、本種の定着が確認され ています。そして今回の調査では、これまでにないほ どの規模でミズワタクチビルケイソウの繁茂が見られ ました。もっとも関東や九州などでブルームを起こして いる河川とは異なり、長く伸びてたなびくほどの大繁



- 0.5 mm

茂(ブルーム)ではありません。ただし、他水域への拡散は何としても避けたいので、この周辺(管理釣り場を含む)に調査や釣り などに行った方は、胴長靴その他の装備を塩水や熱湯などでよく洗うことを忘れないでください。

この調査の終了後の雑談で、ミズワタクチビルケイソウが安曇川で出現していることが新聞報道されたことにより、安曇川のア ユやウグイが風評被害を受けて売れなくなっているという情報を得ました。ミズワタクチビルケイソウは繁茂するとアユが寄り付 かなくなったり、水生昆虫群集が変わってしまったり、景観上の悪影響が出たりすることはあります。しかし毒性はなく、また本種 を食べたアユの味が落ちるという報告もありません。つまり安曇川のアユが売れなくなっているのは純然たる風評被害であり、 本種の侵入で困っている安曇川の漁業者をさらに困らせることになります。本種の繁茂が安曇川の魚の安全性や味に影響を及 ぼすものではないことを認識した上で、ぜひとも「買って応援」「食べて応援していただければ幸いです。

他にも野田沼・曽根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、 堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

【活動予定】

6月7月は、集まって行う活動の予定はありません。個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(12) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

大型連休も過ぎ去り、初夏といえる気候になりました。いよいよ田んぼのシーズン開始です。とは言え、今年はどうも田んぼの 作業開始時期が遅いような気がしているのは私だけでしょうか。大津近辺では、田植えの終わった田んぼが少ないと思います。 また、麦畑も多いようです。昨今のコメの値上がりから考えても、米作りに異変が生じている気配です。田んぼのエビを心配して いる場合ではないのかもしれません。

【活動報告】

5月5日 1名

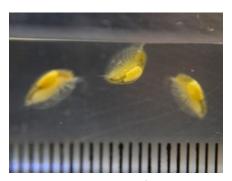
博物館屋上のコンテナ田んぼの水入れ、代掻きを行った。今年こそはここにたくさんのカブトエビがわくことを願いつつ。 5月11日 6名

午前中に、例年観測をしている大津市見世の田んぼでヒメカイエビ、アメリカカブトエビ、ホウネンエビ、トゲカイエビを採集し、 午後博物館実習室で観察した。ヒメカイエビの卵はカップケーキ型であった。その後、サンプル瓶を準備し、調査日程を以下のよ うに決定した。会の終了後、屋上コンテナの田んぼに県推奨米のみずかがみを植え、午前中に採集したエビ類を「アメリカカブト エビロンテナに放した。

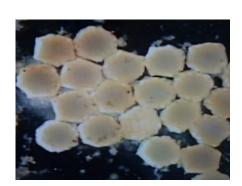
【活動予定】

今年度の調査予定は以下の通り。興味のある方は随時参加可能ですのでご連絡ください。 (1)2025年6月8日(日)

近江八幡土田町、八木町、小船木町、加茂町、大房町、牧町、南津田町の水田



ヒメカイエビ



ヒメカイエビの卵



田植えした屋上コンテナ田んぼ



(13) ちこあそ

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 5名 】

グループ担当職員:中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また 10 時から 14 時までの一日の活動としています。

【活動報告】

■4月の活動 4/16(水) 5組(幼児8名、大人5名)

春の暖かさを感じる中、みんなと3月にフキを見つけた所へ出かけました。フキノトウを探していた時には、落ち葉を除け、目を 大きく開いて探したのですが、なんとフキの葉っぱがいっぱい!私たちが取り尽くしてしまったかなぁと思っていたのに、フキは なんと強いことかとびっくりしました。大きな葉っぱを傘にして遊びました。

みんなでジャガイモの種芋を植えたあと、工房裏の竹林へ。毎朝バンダナおじさんが竹林整備で落ち葉かきをしてくださってい ます。タケノコ出てないかなぁと探すと小さな頭が見えました。スコップや鍬をつかって周りを掘り進め、根っこの曲がり具合を見 極めて、深くスコップを突き立てて、最後はグイッと起こすと、タケノコが掘れました。大きかったり、小さかったりいろいろですが、 20個以上掘れました。

田んぼの田植えはまだですが、周囲の森や水辺には生き物たちが集まり始めました。ナナフシモドキやヌマガエルを捕まえま した。

■5月の活動 5/21(水) 9組(幼児12名、大人9名)

半袖で過ごせるような陽気。田んぼには水が入って、田植え行事も終わりました。するとたくさんの生き物たちが集まりました。 シオカラトンボが何頭も飛び、ヌマガエルが跳ね、オタマジャクシが泳ぎ、シマゲンゴウロウが潜っていました。4 月に見かけた ナナフシモドキはさらに大きくなっていました。子どもたちは虫取り網を持ってトンボを追いかけたり、ヌマガエルを捕まえようとピ ョンピョン一緒に跳ねたり、生き物と一緒に遊べるパラダイスでした。

サツマイモ苗を植えました。ここ最近なかなか大きく成長せず、親指サイズのサツマイモを秋に収穫していますが、今年こそ大 きくなりますようにと願いながら、植え付けて水やりをしました。









4月 タケノコ掘り

4月 水遊び楽しいね

5月 トンボ捕まえたよ

5月 サツマイモ苗植え付け 今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃ)が担当しました。

【今後の活動予定】 びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
6 月	6月18日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 6 月	定員 10 組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。
7月	7月16日(水) 10:00-14:00	ちこあそ7月	毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなどやさ しい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう!



(14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ)21名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 2025年3月30日(日) 参加者:12名、学芸員:2名 博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。





3月30日の活動の様子

3月30日の活動で見つかったプランクトン

■ 2025 年 4 月 26 日(土) 参加者:9 名、学芸員:2 名

博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。また、マイクロアクアリウムで飼育しているヒドラが有性生殖をしていたので 学芸員の方に見せて頂きました。普段ヒドラは無性生殖で分裂して増えているため卵を見る機会は少ないです。今回採集したプ ランクトンサンプルに Daphnia の有性生殖卵(耐久卵)も入っていましたがこちらはこの季節には琵琶湖でよく見かけます。





採集風景

4月26日の活動で見つかったプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



(15) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:渡邉 俊洋、桑原 康一

【活動報告】

5月11日(土) 春の草花でしおりをつくろう! 参加者 21名

わく探新年度はじめのプログラムは「春の草花でしおりをつくろう」です。草花の話をし、屋外展示で草花を採集、最後に採集した草花を使ってしおりを作ります。前日に雨が降り、草花を押し花に出来るか心配でしたが、気温も上がりしおり作りの時間には無理なく押し花が出来ました。

今年も林学芸員さんとはしかけグループ「森人」さんにご協力頂きました。始めに林学芸員さんのお話で、花壇にあるような大きな花ではなく、普段見過ごしてしまうような小さな花を見つけてみよう!と採集のポイントを教えて頂きました。

続いて採集に行きますと屋外展示は一見緑色の景色でした。先ほどの小さな花をヒントに足元に目を凝らすと、様々な色や形の草花に気づく事が出来ました。ここからは「森人」さんが大活躍☆でした。この花は何?と参加者から次々出る疑問に、答えてくれたり目の前で調べてくれたり、ルーペを使って種類を見極めてくれたり…草花を調べる姿を参加者(特に子どもたち)に見てもらえたのは本当に良い時間になりました。

いよいよしおりづくりです。採集した草花を押し花にしてラミネートをして完成です。どの草花にするか?1 つずつの草花を見ることで違いに気づけます。みんな、それぞれに工夫をして素敵なしおりが出来ました。

最後に林学芸員さんから参加者へ、自分の身の回りの草花にも目を向けてみよう!とメッセージを頂きました。「森人」さんからは「めざせ!フォレストマスター」を紹介して頂きました。

参加者もスタッフも草花を真ん中に、にこやかに過ごせて良かったです。ご協力頂いた林学芸員さん、「森人」の皆さまありがとうございました。





グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

【活動報告】

■3月29日(土) 参加者:4名

イノシシの頭の除肉、豚足の徐肉、カメの骨のクリーニング、キツネの骨の組み立てを行いました。

この日行った豚足の除肉は骨格標本の制作の体験用に準備した豚足で、豚足は食材として販売されているので、 比較的手に入れやすい上に、サイズ感や完成した時の満足感もあり、初めての制作体験としてはちょうどよいと感じられました。 もしご興味のある方は一度チャレンジされてみてはいかがでしょうか。

■4月13日(日) 参加者:2名

カメの骨のクリーニング、カワウの解剖を行いました。

■4月26日(土) 参加者: 6名

イタチの解剖、タヌキの解剖、イノシシの頭の除肉、アライグマの解剖、カミツキガメの骨のクリーニング、バイカルアザラシの骨のクリーニングを行いました。

この日、活動しながら話題に上がったのが、小型の魚類の組み立て標本の作り方についてでした。

魚類の骨は哺乳類などの骨に比べて一度バラバラにしてしまうと、もう一度組み上げるの が大変になります。

メンバーの方がお知り合いの方から、魚類の骨格標本の作り方についてご相談を受けた との事で、そのアドバイスをみんなでどうすればよいか話しながらそれぞれ制作を行って いました。

過去の自分たちの経験や、資料でみた制作方法など話しながら、それに加えてその相談 者の方が制作可能な条件や手間の少ない方法など、制作の環境や条件なども考えながら アドバイスできる事をみんなで話し合うのは、楽しい時間となりました。



▲バイカルアザラシの頭骨

■5月11日(日) 参加者:3名

タヌキの解剖、バイカルアザラシの骨のクリーニング、キツネの骨の組み立てを行いました。

【活動予定】

6、7月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(17) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 29名 】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■4月29日(火) 参加者: 10名

活動内容:藍の苗の定植と春の野草観察(琵琶湖博物館・生活実験工房)

今年度の緑のくすり箱の活動が始まりました。緑のくすり箱の活動では、毎年草木染めをしていますが、今年は藍を自分たちで育てて藍染めに挑戦してみようと思います。そこで 3 月の年度末総会の時に、メンバーさんがご自宅で育てて頂いた種を持ち帰り、各自、種をまいて苗を育て、生活実験工房の畑をお借りして、苗を定植させて頂きました。4 月は寒かったのでなかなか芽を出してくれなかったのですが、なんとか少し苗を持っていくことができました。中にはとても上手に育てて沢山の苗を持ってきて下さったメンバーもいました。どのように育てたか聞いたところ、しっかり毎日水やりをされていたそうです。苗の定植は、生活実験工房の畑に 2 畝にわたって植えました。作業はとてもスムーズにできました。しっかりと水やりをし、今後もしばらくは担当のメンバーが交代で水やりをすることになりました。順調に育って、藍のたたき染めや生葉染めができるといいなあと思います。

苗植えの後は、生活実験工房のまわりの野草を観察しました。定番のヨモギやカラスノエンドウ、ハルジオンの他、ノビルやミョウガダケ、シャク、タラノメなど。野草の調理方法の知識をメンバー間で交流しました。またヨモギは太白ごま油に浸して熱し、蜜蝋を加えてよもぎクリームにしてみました。









【参加者の感想】

- ・しっかりと育てられた苗を沢山植えることができ、藍染めが待ち遠しくなります。
- 野草摘みと観察は工房の周りに沢山ありました。どんな料理ができるのか教えて頂きました。
- ・うちで育てた藍の苗は少し小さかったけど、元気に育ってほしいです。
- ・みんなが蒔いた種から芽がでて、ふかふかの畝に植えて楽しい定植作業でした。
- 工房のまわりにあれほど沢山の食べることができる野草があって驚きです。

■5月11日(日) 参加者:7名

活動内容:お茶摘み体験(甲賀市鳥居野)

今年度もメンバーの山本さんのアトリエ、甲賀市鳥居野の里山実験室でお茶摘み体験をさせていただきました。アトリエの横にあるお茶の木から新芽を採って、お茶を作る工程を教えて頂きました。当日はなんとかお天気がもち、暑くもなく作業はとてもしやすかったです。お茶の木は半分ほど切り戻しをされていました。しっかりお手入れして、背丈を調節すること、また来年新しい葉が出てくることを教えて頂きました。

摘んだものをほうろく鍋に乗せて、蒸していき、もんでからまた炒って、みんなでワイワイしながらお茶を作っていきました。 1 杯目のお茶は、しっかり甘味が出ていて、2 杯目はまだ甘味が感じられ、3 杯目は柑橘のお花などを加えて、一口ずつしっかりと味わいながらお茶を頂きました。(おやつには手作りのいばら餅を頂きました)山本さん、大変お世話になりました。









【参加者の感想】

- ・普段、茶葉をが一っと急須に入れてお湯を注いで飲んでいるだけのお茶ですが、今日は一口ずつ味わって、考えて飲むことができました。ありがとうございました。
- ・子供の頃以来のお茶摘みでした。摘むときは葉っぱの大きさをある程度揃えた方がよいというのが、煎っているときによくわか

りました・

- 一芽二葉、摘むときのポチポチという感覚が楽しかったです。
- ・お茶を入れる時間がとても尊く感じました。豊かな時間を過ごさせていただきました。

■5月13日(火)参加者:7名 一般参加者:大人5名

活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)

今年度も琵琶湖博物館イベントの「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」の会に緑のくすり箱が一緒に参加させていただくことになりました。春と秋、年2回です。春は定番のヨモギです。琵琶湖博物館の中庭で蒸留用のヨモギを採取しました。

まずは一般の参加者の方と、生活実験工房から外へ出て、植物の観察を行いました。大変お天気がよく、一般の参加者の方はとても熱心にお話を聞いてくださっていました。同じヨモギでも、葉の形が違うものを観察できたので良かったと思います。

出来上がった蒸留水でアロマスプレーを作りましたが、一般の参加者の方々もとても意欲的な方ばかりで、皆さん、楽しんでおられて良かったです。市販のエッセンシャルオイルも加えてオリジナルの香りのスプレーが出来ました。蒸留水にはヨモギの精油がしっかりと浮いているのが見られました。蒸留が終わったあとの手浴もとても気持ちよかったです。







【活動予定】

- 6月28日(土) 10:00~15:00 玄米ピロ一作り(実習室2)



(18) 虫架け

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 7名 】

グループ担当職員:今田 舜介

【活動報告】

■4月26日(土)17時半~22時 参加者:7名 大津市北比良イン谷口

4 月の例会は灯火採集を行いました。例会の当日は天気がよく、そのためか放射冷却でかなり寒く感じられました。こういう日はおおむね飛来する虫は少ない傾向がありますが、諦めムードになりかけていた午後 9 時ごろに大型の蛾が飛来しました。それが目的の蛾のひとつであるイボタガでした。さらにもう一頭飛来し、参加した会員から歓声が上がりました。イボタガ以外ではヒサゴスズメ、クロテンケンモンスズメ、クロスズメ、オナガミズアオ、ギンモンカレハ、クロフシロエダシャクなどが飛来しました。午後 10 時、新たに飛来する虫もほとんどなくなり、例会を終了することになりました。



また、「虫架け通信」79号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

これからも 1 か月に 1 回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査を したいと考えています。

(文責:伊東)



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

- ■4月12日(日) 京都府立植物園観察会の予定をしていたが、雨天のため中止
- ■4月26日(土) 10:00~12:00 参加者(会員)6名(博物館職員)林

琵琶博の森に関する体験型クイズ「フォレストマスター5、6 月号」の内容について検討。表現方法やデザインなど、どうしたらよりわかりやすく、かつ楽しんでもらえるものになるかアイデアを出し合った。その後、ギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史」の見学を行った。

- →検討した内容を反映した「フォレストマスター5、6 月号」を作成し、5 月 1 日より館内の C 展示室川森コーナーとアトリウム自動 扉横に設置。
- ■5 月 10 日(土) 11:00~15:00 参加者(会員 5 名)、(博物館職員)林 びわたん「わくわく探検隊」春の草花でしおりを作ろう!に協力。
- 11:00~ わくたんの方たちと打ち合わせ、外へ出て植物の下見。実習室でつくり方の練習。
- 13:00~ 受付。参加者は7グループ、21人
- 13:30~ 開始。林さんのお話の後、外へ出て植物を採集。 森人メン
- バーは、植物のことについてアドバイスしたり一緒に観察 したりした。

14:00 すぎ~ しおりづくり

植物に興味があって参加したという子たちやていねいにつくる方が多く、出来上がりも見事だった。ユウゲショウやハルジオンが人気だった。中にはスイバの雄花雌花を比べるためにしおりにしている子もいた。身近な植物に目を向け、大人も子どもも夢中になれる活動だった。





【今後の予定】

- ■6 月 14 日(土)10:00~15:00 内容:自然観察会(大津市·大宮谷林道)
- ■6月28日(土)10:00~12:00 内容:琵琶博の森観察&ミーティング
- ※7月以降の予定は計画中

以上



(20)琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

琵琶湖梁山泊の唯一の会員は現在、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」に出入りして、プランクトンや付着藻類の観察にいそしんでいます。同会に集う同年代や年上の仲間とともに、自分たちが進めている研究の話で盛り上がっています。4 月はカブトミジンコの甲殻表面にある六角形模様の大きさが、成長とともにどのように変わるかを、データに基づいて議論していました。アロメトリーの世界に踏み込めるか?

【活動予定】

引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか?琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生や、研究が進展しすぎて先生の手に負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。まずははしかけ登録をして、表紙のはしかけ代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ!



(21) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】

■ 今のところ特に進展はありません。

【活動予定】

■ コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、興味を持ってくださる方からは継続的に声をかけていただいていますので、この状況でどのような活動展開が可能かを模索しています。



(22) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:楊平

【活動報告】

- 令和7年3月20日(木) 9:00-12:00 晴 参加者6名
- 1 活動先:東近江市曽根町一帯
- 2 調査内容:

河岸段丘下に位置する曽根町は、集落の大部分が、河岸段丘の裾、県道 217 号と愛知川堤防との間にある。県道を挟んだ左手道路沿い、河岸段丘の裾側に天台真盛宗福性寺と豊國山満福寺が同じ境内にある。福性寺前の水路には階段式の立派なカワトも残っている。 両寺の裏は高さ約 10m河岸段丘が迫っている。 段丘上面は区画整理の行き届いた当町の水田が拡がっているが、古人時には、水利の便が悪かったのでこのありさまはなかったであろう。

現在は 60 世帯 180 余名の集落であり、住宅の基礎部には石垣。周辺でよくみられる愛知川河原からの拾い集めたと思われる 角のとれた大小の丸い石を積み上げたものが使用されている。複数の茅葺屋根の民家も数多く存在している。集落入口にある モダンな建物である愛東南小学校との対比が面白い風景を醸し出している。学校前の大きな樹齢 150 年の楠は立派である。

また、集落の南側、愛知川の堤下の墓地に隣接した角地に「お地蔵様」「馬頭観音」示す石碑が祀られていた。



□ 豊國山満福寺

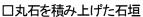


□ 木造聖観音坐像の説明



□ 福性寺門前のカワト跡







□集落入口の楠の大樹



□馬頭観音石碑

- 令和7年4月11日(金) 9:00-12:00 参加者7名
- 1 活動先:東近江市市ケ原一帯
- 2 調査内容:

市ケ原町は百済寺本町の南に位置している。位置的には愛東マーガレットステーション交差点を百済寺方面に曲がり、愛東上中野町郵便局前信号を右折、次の信号も右折して、県道 508 号に入ると加領川に架かる橋の先が市ケ原町集落の入り口である。集落入り口の市ケ原住宅案内図があった。案内図で示されるように集落全体は東方向の山裾から西方向に向けて下がる緩傾斜地にある。西端の低い側を南北に走る県道 508 号から、ほぼ直角に東方向へ直線状登り坂が、集落内を平行に 3 本が貫いている。中でも中央道路は 2 車線の広幅道路で集落規模に合わないように思える。他の 2 本(北側と南側)も直線で 508 号から集落のはずれまで続き、3 本とも同様、獣侵入除けの金網ネットで閉ざされている。中央広幅道路は集落東端最奥のボトリングエ場への大型車通行も容易になっていて、開拓当初からの広幅直線道路設計したことが伺える。北側直線道路の最奥に松號まつごう)神社があって、本殿の裏に山の神の小さな祠が祀られている。更に小さな溝を挟んだ東側隣接地に管理の行き届いた「色彩の丘公園」が拡がっていて、ちょうど桜が満開であった。この公園の北側を加領川が流れているが、獣の侵入除けも兼ねた金網柵で仕切られていて川床は雑木が生い茂り川の流れまでは確認できなかった。許可を得た上で、敷地内を見学した。約 500mボーリングして湧出する地下水と海洋深層水とを混合した水を生産販売しているとのことである。敷地の隅に製造時出た廃水池があり、バブリングしている池に色鯉が飼育されていた。当日も操業されていたようだが、同業種の工場と同様、静寂な環境の中で稼動しているのが一般である。外から目につくのは積み出しトラックの積載業務だけである。歴史的な開拓経過から近隣集落のような広い水田や耕作地帯ではないと考えられる。



幅広い集落中央道路



松號神社の鳥居



神社隣の色彩の丘公園

以上 執筆者 小篠



(23) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

*2025年3月21日(金) 9時30分~11時30分

天候:晴れ 気温:9°C(AM9:30) 琵琶湖の水位:-5cm 参加者:6名

観察状況 新海浜の波は静かに浜に寄せている。水位は回復しつつある。対岸の山は霞んで見えない。 浜は草が出始め春の到来を感じる。風はなく暖かな作業日。

定点観測







今日の新海浜

ハマエンドウ

ハマゴウ

海浜植物の生育状況

ハマエンドウ:休眠期ではあるが日光が当たる所や松の木の下はや少し緑が濃くなり、冬を越した幼芽の生育もあちこちに見られる。保護区域外のハマエンドウは枯れたチガヤの中に埋もれ見つけにくい。

ハマゴウ:変化なし。

活動内容:・ミーティング・宇野さんが来られ保護区域の見直し経過の説明をされた。

・本日の作業について:保護区域内除草(ハコベ・スズメノカタビラ・ツルニチニチソウ等)

ツルニチニチソウ駆除(保護区外 東側)

*2025年4月1日(火) 9時30分~11時30分

天候:曇り 気温:7°C(AM9:30) 琵琶湖の水位:+5cm 参加者:6名

観察状況 新海浜には波が少し高く押し寄せて水も少し濁っている。水位が+5cm となり浜が狭くなったように感じる。曇り空ではがあるが対岸の山はきれい見える。浜風はあるが活動している場所は木々で風が遮られて静かな作業日。

定点観測







今日の新海浜

ハマエンドウ

ハマゴウ

海浜植物の生育状況

ハマエンドウ:冬を越した幼芽の生育もあちこちに見られ、全体的に葉の緑が濃く茎も長くなってきた。

保護区域外のハマエンドウも広がってきた。

ハマゴウ:変化なし。

活動内容・ミーティング (本日の作業・これからの予定について)

- 除草シートの拡張(5m×15m)
- ・ロープの拡張
- ・保護区域内除草(ハコベ・スズメノカタビラ・コバンソウ・ツルニチニチソウ等)
- ・ツルニチニチソウ駆除(保護区外 東側)



保護区外(西側)ハマエンドウ









ロープ拡張(写真左の木から波板の外へ)

*2025年4月18日(金) 9時30分~11時30分

天候:晴れ 気温:16°C(AM9:30) 琵琶湖の水位:+14cm 参加者:7名

観察状況 今日の新海浜は、黄砂?春霞?か全体的に霞がかかり対岸の山裾だけが微かに見える。波はなく琵琶湖は穏やか。 水位が高く浜は前回よりもより狭く感じる。浜いっぱいにハマヒルガオの葉が広がり始めた. つぼみはまだない。作業をすると 暑さを感じるが、動きやすく作業がはかどった。

定点観測







今日の新海浜

ハマエンドウ

ハマゴウ

海浜植物の生育状況

ハマエンドウ:全体的に勢いよく緑が濃くなり茎も長くなってきた。ツルを伸ばしかけている株も多いがつぼみは見当たらない。 ハマゴウ:変化なし。

ハマヒルガオ:浜いっぱいに葉を広げてきた。

その他:・ネナシカズラは見当たらないがオオキンケイギクを2株除去した。

・レンゲの花は咲いているが、ハチや虫は見当たらない。(ハマエンドウの増殖に期待は持てない?)

活動内容 ・令和7年度総会(昨年度の事業報告及び今年度計画・予算)・保護区域内除草(ハコベ・スズメノカタビラ・ヒメオドリコソウ・コマツヨイグサ等)・ツルニチニチソウ駆除(保護区外東側)







ツルを伸し始めのハマエンドウ

ハマヒルガオ

レンゲの花

*作業後:佐波江浜の観察をしました。浜は機械で攪拌されたようで東側入り口から 例年見られる西側までたくさんのタチスズシロソウを確認しました。 花は少し小さく思いましたが群集している箇所もあり全体的に昨年より 多株確認しました。(松村、津田記)



佐波江浜のタチスズシロソウ

*2025年4月29日(火) 9時30分~11時00分

天候:晴れ 気温:11°C(AM9:30) 琵琶湖の水位:+cm 参加者:3名

観察状況 4月22日に新海浜の宇野さんよりハマエンドウの花が咲き始めたとの連絡を受け、臨時にハマエンドウの観察会を行った。北西の風が強く、湖面は白波が立っていた。

定点観測



今日の新海浜



ハマエンドウ



ハマヒルガオ

海浜植物等の生育状況

ハマエンドウ:思いのほか未だ全体の 1 割程度しか花は咲いていなかった。南西の草むら試験地付近と北東の部分が 多くの花が観られた。他はポツポツ咲いているぐらい。

ハマゴウ:若葉が芽吹き始めた。(風が強く上手く写真撮れず)

ハマヒルガオ:浜いっぱいに葉を広げてきた。

ハマダイコン:1株だけ赤紫の花を付けて生えていた。

その他: アメリカネナシカズラは見当たらなかった。

・レンゲソウの花に種が出来ていた。

・ツルニチニチソウは花が咲き、勢いついている感じ。

活動内容:本日作業なし

*2025年5月16日(金) 9時30分~11時30分

天候:くもり 気温:20°C(AM9:30) 琵琶湖の水位:+26cm 参加者:6名

観察状況 新海浜は、曇り空。対岸の山裾だけが少し見える。波は少しあるが琵琶湖は穏やか。水位が高く浜は前回よりもより狭くなった。4月18日には浜いっぱいにハマヒルガオの葉が拡がり、花が期待されたが波にさらわれたようだ。(2~3輪の花が確認できた)コマツヨイクサ等がはびこり、全体に草の勢いが強い。これからは草との戦いになりそうだ。曇り空で動きやすい作業日。

定点観測







今日の新海浜

ハマエンドウ

ハマゴウ

海浜植物の生育状況

ハマエンドウ:花は今真っ盛り。終わりかけた花もちらほら見られる。緑も濃く勢いが良い。昨年より生育面積も広がり 活動の開始から 25 年間で一番花数が多い. (地元の宇野さん談)。種はまだ見つからない。

ハマゴウ:浜いっぱいに新葉が広がってきた。花芽はまだない。

ハマヒルガオ:水位の上昇で波にさらわれたのか? 花は2~3カ所にしか見当たらない。

その他:ネナシカズラは見当たらない。

活動内容・ミーティング(今日の作業・4月の活動報告)

- ・保護区域内除草(ハコベ・スズメノカタビラ・コスズメガヤ
- ・コマツヨイグサ・コバンソウ等)
- ・駐車場側の除草(草刈り機による)及びツルニチニチソウ駆除



ハマエンドウ



駐車場側のハマエンドウ (雑草との共存)



新芽が広がるハマゴウ

以上

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(6~7月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、 必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】	マイクロアクアリウムを	2025年	土	13 時 30 分	琵琶湖博物館	※先着
プランクトンを見よ	探検します。プランクト	6月14日		~	実習室1、水族	※雨天決行
う!	ンを顕微鏡で観察した			15時00分	展示室	
	後、それをモチーフに					
	アート作品を作ります。					
ちこあそ・6月	博物館の森や田んぼ	2025年	水	10 時 00 分	琵琶湖博物館	※事前申込みの
(ちっちゃな子どもの	で自然遊びや、昔の暮	6月18日		~14 時 00	生活実験工房	上、10 時~14 時の
自然遊び)	らしの体験をしたりしな			分		間でご都合のよい
	がらゆっくりと過ごすち					時間帯に、生活実
	っちゃな子どもの遊び					験工房にお越しくだ
	場です。					さい。
【わくわく探検隊】	骨博士から骨について	2025 年	土	13 時 30 分	琵琶湖博物館	※先着
骨にふれてみよう!	のお話を聞き、普段あ	7月12日		~	実習室2、C展	※雨天決行
	まり目にすることのな			15時00分	示室	
	い骨を実際に見たり触					
	ったりします。					
【田んぼ体験】	生活実験工房の周辺施	2025 年	日	10 時 30 分	琵琶湖博物館	※虫取り網かご等
生活実験工房	設や水田を利用して、	7月13日		~	生活実験工房	できるだけご持参
昆虫採集	田園空間の生き物につ			12時00分		下さい。
	いて学ぶことを目的と					※暑さ対策をお願
	し、その一環として、昆					いします。
	虫採集を体験して頂き					※雨天中止
	ます。					※要事前申込
ちこあそ・7月	博物館の森や田んぼ	_	水	10 時 00 分	琵琶湖博物館	※事前申込みの
(ちっちゃな子どもの	で自然遊びや、昔の暮	7月16日		~14 時 00	生活実験工房	上、10 時~14 時の
自然遊び)	らしの体験をしたりしな			分		間でご都合のよい
	がらゆっくりと過ごすち					時間帯に、生活実
	っちゃな子どもの遊び					験工房にお越しくだ
	場です。					さい。
	į	l .	ı			

4. 生活実験工房からのお知らせ

5月11日に田植えイベントを実施しました。当日は、曇りでしたが、無事に行事を終えることができました。参加者の方より、「田植え体験が楽しかった。」というお言葉をたくさん頂きました。参加者の皆様が、楽しみながら、農作業を体験されている姿が印象的でした。

今後のイベントは以下のとおりです。



田植え作業前 お話の様子

【活動予定】

開催時間: 10:30~12:00(受付 10:00~) 場所: 生活実験工房 田植え、稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

7月 13日(日) 昆虫採集

9月 7日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)

10月 11日(土) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

12月14日(日) しめ縄づくり

2月 8日(日) わら細工



田植え作業中の様子

担当:環境学習•交流係

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に 各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グ ループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku,jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku,jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。